

知事広聴「平太さんと語ろう」 記録

【日時】平成29年11月29日（水）

午後1時30分～3時30分

【会場】ふじのくに千本松フォーラム

プラサヴェルデ

1 出席者

- ・ 発言者 沼津市において様々な分野で活躍中の方
6名（男性3名、女性3名）
- ・ 傍聴者 110人

2 発言意見

番号	分野・所属	項目	頁
発言者1	女性活躍	働く女性の支援	2
2	地域活動	マーケティング講座を通じた人づくり	4
3	地場産業	干物の国内外に向けたアピール	11
4	子育て	地域における子育て支援活動	13
5	観光	自転車を通じた観光振興	18
6	地域振興	地域資源を生かした町づくり	23

【川勝知事】 皆様、こんにちは。今日は朝から美しい富士山が姿を見せられていまして、「心地よく晴れたる秋の秋空にいよいよ映える富士の白雪」と、やはり雪化粧した富士山、ここから見る富士山が日本一というこれまでそういう文人墨客がたくさんいらっしゃいましたけれども、今日は富士を仰ぐ沼津に来られて、大変幸せでございます。

私は沼津に来た回数は、公式の回数だけでも 90 回を超えております。県下全体でも 2,400 回ぐらいあちこち行っているわけですが、この広聴会、これは広く聴くということでございまして、今日は若手の沼津の男性 3 人、女性 3 人がいらっしゃいまして、それぞれ御活躍であると同時にまたいろんな課題も抱えられているに違いありません。

しかし、これ聴くだけでは意味がありませんで、広聴をいたし、広く聴きまして、そして課題に対してすぐ答えられるものは、私がここでお答え申し上げます。ただ、すぐに決定できないことがままあります。その場合には持ち帰りまして、御当人は言うまでもなく、関係者には必ずお返事を申し上げるというふうにする、そういう実のある会になっております。

しっかりお聴きした上で、きっちりこの沼津の皆様方の生活や、あるいは産業がよくなるようにしたいと、こういう会でございますので、どうぞよろしくお願いを申し上げます。以上でございます。

【発言者 1】 皆様、こんにちは。ただいま御紹介にありました発言者 1 と申します。本日はよろしくお願いいいたします。

私は有限会社エス.という会社、こちらの会社はエステティックであったりとか、美容全般のスクールなんかをしております。そんな中で、「働く女性を応援する」を掲げて、起業をして 15 年になります。そのような中で昨年、沼津市であるとか沼津商工会議所の支援を受け、NPO 法人 Woman's サポートというものを設立させていただきました。こちらの Woman's サポートも、もちろん「働く女性を応援する」ということなんですけれども、やはり 1 つの会社でやるよりは、このような形の NPO という形をとらせていただきまして、広く働く女性を応援していきたいということで、このような形をとらせていただきました。

特に起業している女性、起業したい女性、もしくはそれぞれの会社の管理職の女性を中心に、仕事とプライベートの両立などで悩んでいる方たちとともに成長していこうということで、「女性が輝けるまち沼津」を目指して日々活動しております。

この Woman's サポートというのは2つの考えの元でやっております。まず1つはメンバー、Woman's サポートに入ってきてくださっている女性ですね。女性は地域貢献、ボランティアという形で、セミナーであるとかイベントなどの各事業の立案・計画・実行等をして、自分の利益や自分の仕事には直結しないものの、同じ目標を持って1つのものをつくり上げていきます。

1つのことをやり遂げるという経験の中で、他者を思う気持ちを育み、メンタルを強くし、継続できる力を身につけ、自己研鑽をしていくということが目的です。それを自分の仕事や、自分の環境に生かしていただきたい。また、雇用関係や利害関係がないからこそ、それを繰り返すことで、真の仲間がそこにできていきます。地域貢献には、仕事では得られないことがたくさんありますので、私たち Woman's サポートはそれらを女性の力だけでやっというとしていこうとしている団体です。

2つ目は、私たち Woman's サポートのメンバー以外の女性に対しまして、私たちが開催するセミナーやイベントなどに参加することで、ロールモデルを見つけたり、悩みが解決できたり、目標が決まったりと、一歩前へ進むきっかけづくり、社会で通用する本当の起業家を輩出していくということが私たちの務めだと思っております。

しかし、私たち Woman's サポートのメンバーは、皆さんすべてコンサルタントとか、そういうのではないので、あくまでも私も含めてそうなんですけど、自分の経験してきたことでしか語ることはできません。ですけれども、自分が経験してきたことで失敗したこと、あるいは成功したこと、そういうことなどをメンバー同士語ったりとか、あるいはセミナーなどで私も語ったりとかしながら、一緒に1つのものをつくり上げていけたらいいなと思っております。

そんな中で先日、静岡県で行いました「ふじのくにさくや姫サミット」というのがありました。こちらは女性の管理職を中心としたサミットになったんですけども、静岡県全体ですね、浜松とか静岡市の方からも、皆さんこちらのプラサヴェルデに集まってくれました。

これは静岡県の男女共同参画課で行ったものなんですけれども、そちらの座長を務めさせていただきまして、いろいろなところのそれぞれの地域の管理職の方とお話をさせていただいた中で、やはり思ったのが、どうしてもやはり西部や中部の女性の方が、やっぱりちょっと私たち東部地区より意識が高いかなというようなのを率直に感じました。

もう少し私たちも意識を、働くということに対して、女性が仕事をするということに対

して、意識を高く持っていかなきゃいけないと同時に、やはり男性の皆様にも、女性が働くというのは、これからの時代は当たり前のこととなっていくというものを、やはり本当の意味で理解していただくことがこれから必要になってくるんじゃないのかなと感じております。

またその一方で、そのとき出たのは、やはり女性活躍支援という、その「女性」というのが付くこと自体が、もうこれからの世の中おかしいのではないかと。男性も女性ももう一生働くということに対しては一緒のところに来ているのではないかと、同じところに来ているのではないかとという意見も幾つか出ておりました。

しかしながら、まだまだやはりこの沼津市であるとか東部地区というのは、そのあたりがまだまだどうしても支援というか、皆さんに助けていただかないと女性が働けるような環境にないというのが事実ありますので、ですからそのあたりなんかを今後の課題として、女性がやはり自分の人生を生きていけるような、そんなような沼津市になっていったらいなと思っております。

私たちの Woman's サポートとしてのこれからの課題としましては、今言ったようなところの意識を高めていくということももちろんなんですけれども、特に起業支援に力を入れておりますので、女性が今起業したいという方が多いんですけれども、そういう方々が、ただ起業するだけではなくて、それを続けていける。そしてそれで利益を出していける、そういうようになれるように、やはり共に成長していかなくてはいけないなと思っております。

そして先ほども言ったように、「女性が輝けるまち沼津」と言っていただけのような、そういうようなまちづくりというか、そのような沼津市に今後していきたいなと思っております。私からは以上になります。ありがとうございます。

【発言者2】 皆様、こんにちは。私は沼津で広告の企画制作の会社を営んでおります有限会社サンディオスの発言者2と申します。父が31年前に創業しまして、4年前に会社を引き継いでおります。私が会社のスタッフとみんなと一緒に取り組んでいるのは、沼津の高校生を対象にしたマーケティングとプレゼンを学ぶ講座の開催です。なぜ小さな広告会社でこんなことを始めたかといいますと、新たに始めた事業で知り合った高校生からの声にありました。

弊社は、広告企画そのものをマーケティングという手法を用いまして、お客様を動かす

広告提案というコンセプトで販売促進支援を行っております。その中で、Ne? Hi! Hoー(ね〜はいほー) SHIZUOKA という県内に限定したマーケティングリサーチコミュニティの構築というのを事業にしていたんですね。そのときに県内の高校生に、このコミュニティの構築に対して御協力をいただくことになりまして、高校生に向けて初めてマーケティングの講座というものを開催させていただきました。

ここで出てきたのが、高校生の「もっと地元の企業のこと知りたいです」、「社会人の話を聞いてみたいです」、「会社訪問してみたいです」、「いい会社があるんだったら就職してみたいです」、こんな声だったんですね。

私すごいこれを聞いてびっくりしたんです。自分が高校生のとき、こんなこと想像もしなかったなって思いました。今の高校生は自分の将来を想像する力がある。もっと地域の企業の魅力を情報として伝えることができれば、地元で活躍したいと思う学生は増えるかもしれないなど、そう感じました。

広告というのは、業種に関係なく、例えば皆さんがお持ちの名刺の製作も承ることから、いろんな業種の会社様とお仕事をさせていただいております。その中には、本当にオンリーワンの商品をつくっている会社さんですとか、すばらしいビジョンを持って躍進される経営者さんという姿をたくさん見ることができました。

また、既に沼津でも人材不足の声はどんどん上がってきている状況なんですね。そこで、市内に沼津って高校が13校もあるんです。その高校生たちに向けてマーケティングの講座を開催し、その中で実在する地域企業の実在する課題を解決する企画を考えてもらうというのはどうだろうかと思いつきました。これから否が応でも人口が減少する中で、一人一人の生産性の向上が必至であると考えております。それには主体性を持って仕事に取り組む人が増えることが一番であろうと思っております。

マーケティングというのは、自分で考え、企画提案し、実行する力の基盤になると、自分が学んですごく感じました。このスキルを未来を担う学生に伝えることができれば、そしてその力を地元で発揮してもらえたらどんなにすばらしいだろう。そう思いまして、この夏、沼津市が提供していただきましたまちづくりファンド事業に応募して、この高校生を対象とした沼津マーケティング&プレゼン塾の開催に至りました。

この講座では、先に申しましたとおり、実在する企業課題をプロジェクトテーマにしまして、担当企業ごとにチームを組んで、企画立案、プレゼン大会を行いました。プログラムの中には、企業を高校生が実際に訪問しまして、社長や社員さんにヒアリングですとか、

ランチタイムというコミュニケーションをとる時間をとっております。また、マーケティングの座学と企画立案タイムというものを交互に組み合わせまして、学んだことを即実践に移すというカリキュラムで構成してみました。

こうして迎えました最終日のプレゼン大会は公開の場とさせていただきます、このプロジェクトに参画していただきました企業様以外にも、市長を初めとする多くの地域社会人の皆様に、高校生の熱意あるプレゼンを聞いていただくことができました。

現在、この高校生の企画は終わっているわけではなくて、その企画そのものを動かすべく、会社と高校生が打ち合わせをして、新しい広告をつくるかというプロジェクトが進行形で動いております。また、受講生が来年も再受講したいですとか、大学に上がった子たちが夏休みに帰ってくるから、この講座にスタッフとして参加したいという声もたくさんいただいております、そういうことで大学生になっても、夏休みのひとときをこの講座に触れていただくことで、より多くの地元企業との交流が生まれ、地域の魅力、地域企業のすばらしさに触れてもらえるのではないかなと期待を寄せております。

今後ますますAIやIoTといった技術革新が進む中、重要なのは人の創造力と優しさ、温かさではないかなと私は個人的に思っております。私どもはこれからも人のつながりから広がる新たな創造の場というのをつくっていけたらいいなと考えております。これからも主体性を持って地域に関わり、仕事をさせていただけたらいいなと思っております。私からは以上です。

【川勝知事】 どうも発言者1さん、発言者2さん、ありがとうございます。たくましい2人の女性のプレゼン、頼もしくお聞きしたということでございます。

発言者1さんはエステの事業を取り仕切っていらっしゃる。美容の仕事ですね。皆さん、今日は女性の方が半分ぐらい来ておられて、どうもありがとうございます。皆お美しい。もちろん素顔も美しい、プラスお化粧が上手だということで。

実は化粧というのは、人類の歴史とともに古いというふうに思うんですけれども、今化粧品産業として産業になっていますけれども、化粧品の日本一の産出県はどこか御存じですか。静岡県なんです。4,000億円、お金はどうこう。2位が2,000億円ですから、ダブルスコアで勝っているんです。美しく化粧をするのに必要な素材をつくらしている日本一の県なんです。これは輸出産業にもこれからさらになっていきまして、特にアジア、中国から東南アジア、人口が多いですから確実に発展していくというふうに思っているわけですね。

ちなみに医療、医療には医療器具と医薬品がありますけれども、これの合計額も実は日本一がどこか、静岡県なんです。ちょっとお医者さんが少ないということがあるんですが、医療器具とか医薬品は何と1兆円です。ですから健康と美というのをつくっているのが静岡県で、これはいかにも富士山の麓という県の土地柄にふさわしい産業じゃないかと思えますね。

そしてそれは女性が最も勇躍して入り込んできている仕事じゃないかと。その代表のお一人が発言者1さんで、そして女性がもっと加わらなくちゃいけませんよということで、明治以降、男性中心の社会になったんですね。来年が明治維新ちょうど150年じゃないでしょうか。1868年が明治元年ですから、2018年がちょうど150年目に当たるということがあります。

それ以前、どうだったでしょうか。ほとんどの人が農業をやっています。農業は男の仕事でしょうか、女の仕事でしょうか、両方の仕事ですね。ですから日本の人口の9割が農業をしていたわけですが、基本的に男女共同参画のことを一緒にやっていたわけです。それからまた町人の仕事、お店をしっかり守って、お客様のサービスをする。これももちろん男女共同参画ですね。職人の仕事、何となく男の仕事みたいですが、例えば日本海側にしてもそうですけれども、女性が機織りの仕事をする、きれいなものをつくる、あるいは籠を編む、こうした仕事は今の工芸品になっていますけれども、一緒にやっているわけです。

武士はどうか。何となく男中心みたいでしょう。だけど武士というのは家格を重んじるんですね。ですから、御主人様と奥方様の家格は対等です。ということは、実は下に敷いてないんですよ、男が女を、女が男を。そして女中は全部奥様の奥方の支配下になるんです。下男は全部旦那の支配下になるんです。財布も別なわけです。これを磯田道史という人が『武士の家計簿』という本で、我々のイメージを覆されまして、映画にもなりました。ですから基本的に男女共同参画だったんですね。

明治以降、工場ができて、サラリーマンで働きに行くと。そして家を守る良妻賢母型というこれが女性の役割になってしまって、あたかも昔からそうだったかのごとくに言われるようになりました。それは違うということで、最近では戦国時代でも直虎さんのような人がいたとかいうことで、レディーサムライという言葉もあるくらいです。

ですから意識を、発言者2さんが言われるように意識を変えることがまず大事ですね。学校の先生、小学校や中学校、今女性の社会進出がすごいですね。もう大体半々ぐらいで

しょう。それからあとはメディアですね。今日もあそこら辺にテレビを撮っている人がいる、あの人も女性でしょう。ジャーナリストたくさんいますよ。それからテレビで6時のニュースを見ていると、男女で2人でやっているじゃないですか。どちらが際立っているかという、女性の方が際立っているでしょう。それから新聞記者になったり、それから出版社、もうほとんど女性です。

ですから私たちはここで仕事をできると思ったら、女性がざあっと出て行って、もう十分に男と対等の仕事ができると。ただ県庁の仕事、市役所の仕事、消防署の仕事等々、何となくまだ入りにくいところがある。あるいは議員先生のお仕事とか、こういうのは実は意識を変えていくと女性が入りやすいような環境をつくり上げていくとできるということじゃないでしょうか。

そういうことで、先ほど「このはなさくや姫」が富士山の神様でいらっしゃいますから、「さくや姫サミット」、要するに企業を経営しているような立派な女性たちがサミット、お互いの経験を共有し合うと。これを平成26年からやっております、今年はこの沼津でやったんですね。そしてその作業部会のトップを発言者1さんに務めていただいております、まだ4回目ですけども、これからもどんどん変えていきたいということで、労働力も不足しているということもございます。

女性の活躍、それから外国人が静岡県には8万人ぐらいいらっしゃいます。もう二世も生まれてきているんですね。出稼ぎの子として来た。しかしながら努力して大学にも行った。そして日本人として肌の色とか目の色とか髪の色が違うけれども、例えばスポーツなんかでも、サニブラウン君だとかケンブリッジ君だとか、たくさん日本人として堂々と活躍して、ラグビーもそうですね、お相撲さんは言うまでもありません。そういうふうにいるなどころで日本人として活躍していらっしゃる外国人もいらっしゃいます。

それから今日はお若い人が多いですけども、私69ですよ。しかし76までは健康寿命なんです。ですからもう75歳で後期高齢者というのはほとんどない話です。76までは健康でかつ日常生活に支障を来さないという、これが健康寿命というんですけども、静岡県は日本一、言い換えると世界一なんですね。ですから77ぐらいになると、少し自分のことを大事にして、自分が長生きすることが人類の夢である健康で長寿を全うするという、それに貢献することになりますから、余り無理してはいけません。

だんだん偉くなっていくんですね。80代で中老になって、88で長老になっていくわけです。長老というのは偉いんですよ。決して後期高齢者だとか言うてはいけません。御長老様、

この件についての御判断をお願いしたいと、このようにおばあちゃん、おじいちゃんはどういうふうにお考えになるか、さすがはおばあちゃんは人生経験を積まれているから違う、もうこれで一発です。そういうふうに敬老の精神を持ちながら、健康で長生きするということで、女性の方がそのトップを今切っているわけですね。そういうことで高齢者も、それから外国人も、女性も、一緒になってみんなで社会を元気にしていこう。

その中で一番元気なのが女性ですから、このお花でも、これはもちろん緑化の会とおっしゃっていましたがけれども、実際にやっているのは女性じゃないですか。食事をきれいに、今日もおいしいお弁当を市長さんと皆さんと一緒にいただいたんですが、これもしつらえしているのは女性だと思います。

そんな感じでもう不可欠だということで、それをどの分野でもやっていこう、沼津からそれを始めていこうと、こういうお話ですので大賛成です。発言者1さんに続けと、こういうわけです。

発言者2さんは、お父上の仕事を継がれた、いいお父上ですね。娘を信じて、自分の大事な会社、企画広告の仕事を任せられた。その恐らく志を継いで、高校生を相手にマーケティングの講座とか講義とか、紹介をすると。テキストはどこか。自分の会社もさることながら、自分の会社が媒介になって実在する沼津の企業をそれがテキストになって、そこで高校生が実際に学びながら、こんな会社があったのか、こんな仕事があったのか、それなら私もやりたい、僕もやりたいというそういう企業を興す、そういう気持ちを私もやってみたいと思わせる。

これは今まで、例えばこちらだと有名な高校がありますね、沼津東でしたっけ。あるいはすぐ近くに菰山だとか、あの辺のところの高校は、みんな東京の学校に行って、大体一浪とか二浪して、大したことはないんですよ、拠点校と言われているのは。そういう勉強も大事です。偏差値上げて、一流校に入って、しかし沼津で一流校に入って、一流大学に入って、そしてものすごいでっかい会社に入って、ぼろぼろにこき使われて、そして自ら命を絶ったお嬢さんがいたじゃないですか。

ですから、その方は恐らく立派な大きな会社で華やかだと思っていったら、そこは大変な、もう地獄みたいな、人を酷使するところで、相談する人もいない、お母さんにも相談もできないということで、しかしここだとお友達もいる、そして御両親もいらっしゃる、そういうところで仕事がありますよということで、現場をテキストにしてできますよというそういうお話でしたね。

私は広い意味でこのマーケティングもそうですし、あるいは水産もそうでしょう、農業もそうです、ものづくりもそうです、あるいは場合によってはサッカーのようなこういうスポーツもそうですね、芸術もそう。こういう体で身につけるもの、これを仮に実学と言ってみましょう。技芸を磨く実学。これは英数国理社という主要5科目、これを中心にして、いい大学、いい会社というふうなイメージでいっているものと比べたときに、どちらかという二次的に考えられてきた。しかしそうでしょうかね。

私はそうは思いません。はっきりそう思います。なぜかと言うと、例えば例に挙げれば藤井聡太君。中学の3年生、14歳ですよ。14歳で29連勝して、そして50勝6敗です、今のところ。これ羽生名人も抜いてしまった。この子は高校に行くとか行かないかで問題になりましたけれども、行っても行かなくても将棋道で生きていくのじゃないでしょうか。

こちらの平野美宇さん、小さいときからものすごく卓球が上手で、この人は卓球道で生きていけるでしょう。こちらのアスロクラロの山本監督、あの方はサッカー道で生きていらっしゃると思います。どこが一体、算数ができるとか社会ができるとか国語ができるとか、どちらができるんでしょう、どちらが大事か、どちらも大事だと思うんですよ。

ですから私は、このマーケティングで人様のお相手をして、自分は簿記が得意だ、コンピューターが得意だ、あるいは人様の相手をするのが得意だと、それぞれいろんな違いがあると思いますが、そうしたときに静岡県には一次産業から三次産業、ものづくりは言うまでもありません。こちらには沼津高専まであって、ものすごいレベルの高いものづくりの技術の蓄積があります。それ選べるんですね。

知らないまま東京に行って、横並びでたまたま就職したのが東京だったという、それをひっくり返して、中学を卒業するころには、自分はこういうことをやりたいと思う子をつくっていきたい。そして、高校のときにはもうそういういろんなものを選べる。だから実学、それから公立だけで42の学校がありますよ。例えば田方農業高等学校とか、富士宮の富岳館高等学校だとか、あるいは下田の分校になっておりますけれども、農業を中心にした学校だとか、そういうところは実学を教えているんですね。体で持っていますから、確実に役に立ちます。そういうものをもっと大事にしたいと。

だからそういう拠点校をつくりたいと思っているくらいでありまして、そのときにどこが先生になるかという、実学を実際にやっている社会だということで、それを今紹介してくださっているのが発言者2さんのところですね。私はそういう輪がもっと広がって、高校生の持っている志ですね。これに形を与える、選択肢を増やしていくと、こういうの

を沼津から始めてくださいませんか。

ぜひ女性中心の、今は男性が中心ですから、女性を中心にするというつもりでちょうどですね。今の課題の1つは女性であり、若い人、青少年に沼津のこと、あるいは静岡県のこと、あるいは東部のこと、あるいは伊豆半島のことをもっともっとよく知って、社会のことを知って、「知らないんです」 そうなんです、知らないんですよ。知らないまま東京に行っちゃっている、こういうわけです。

そういうことで、どうもありがとうございました。何の要求もありませんね。これはもう大したものです。ありがとうございました。

【発言者3】 皆さん、こんにちは。有限会社ヤマカ水産の発言者3といたします。弊社は沼津市の志下で干物をつくっている干物屋です。大正元年に創業しまして、今社長は4代目です。私は専務ですが、5代目になります。今日は沼津の干物のお話と、今私がやっていることと、今後やっていきたいことなんかをお話したいと思います。

沼津の干物は、50年ぐらい前に盛んになりまして、最盛期には300軒ぐらい干物屋さんがあったんですけども、現在は80軒ぐらいまで減少してしまって、衰退の業界です。

消費が減っていることが、その主な原因なんですけれども、生活環境の変化であったりとか、食が豊かになりましたので、消費が減ってしまうことはいたし方ないかなとは思っていますけれども、すごく残念です。ですが私は今、週5で干物を食べています。夜ほぼ毎日のように干物が出ます。私子供が3人いますけれども、5歳、4歳、2歳の子も大好きで、干物を一緒に食べます。

そんなふうに私すごく干物好きなんですけれども、マイナビさんが調べたデータがあって、マイナビさんなので、対象は就職前の学生さんなんですけれども、夕飯に出てきて残念なおかずランキングというのがあります。2位がおでんです。1位が、もう言わなくてもわかっているかもしれないんですけども、2倍の差をつけてダントツ1位で干物なんです。もう残念というより悲しいような状況です、現実が。

こんな現実を打開したくて、干物のイメージをちょっとでも向上させたいなということで商品を開発しまして、偶然にもいいフレンチのシェフに出会いまして、干物をフレンチに合わせて、ワインやパンにも合う「ペッシェール」という商品をつくりました。これはコンセプトは特別な日、誕生日とか、結婚記念日とか、あとはもうすぐクリスマスですけども、クリスマスであったりとか、そんな日に特別なディナーに食べてもらいたいおし

やれな干物をコンセプトに商品開発しまして、これは昨年度のふじのくに新商品セレクションでも金賞をいただきまして、知事にも表彰をいただいた経緯もあります。

使ったお魚は静岡県産のみです。沼津のアジ、シマアジ、富士宮でつくっているマスですね、あとは静岡県のキンメダイなんかも使いながら、オレンジの皮でシトラス風味だとか、いろいろフレンチの手法を使っておしゃれな干物をつくって、イメージを向上して、干物はこんなにおいしいんだと思ってもらって、ここからアジの干物を食べてもらったりとかして、干物の消費量を増やしていきたいというのが僕の思いで、2年前につくりました、こういう商品を。

今やっていることがもう1つありまして、今は沼津をもう一度干物のまちにしたいんです。50年前から徐々に衰退してしまった干物のまちなんですけれども、もう一度昔みたいに干物のまちにしたいなというのが僕の思いで、沼津でつくった干物はほとんど大部分が東京とか名古屋、大阪とか、首都圏を中心に外に出ていってしまいます。

そのことで外の人の方が、どちらかという沼津って干物のまち、沼津の干物とよく言われるんですけども、地元の方は実際どうなのかなというのがすごく疑問なところで、人に聞くんですけども、「沼津のおいしい干物はどこですか」と言うと、ほとんどの答えが、ヤマカ水産という答えがないんですね。それはいいんですけども、だからといって違う干物屋さんの名前もない。答えは「わからない」「知らない」です。干物屋さんの名前、まだ80軒もあるのに、1軒も名前が出ない。これって全然干物のまちじゃない。

地元の方が全然身近に干物を感じてないんだなというのがすごく最近感じて、自分の勝手な思いで、干物の直売店をオープンしちゃいまして、本当に小さい小さいお店ですけども、お土産の干物屋さんじゃないので、沼津港じゃないです。沼津港じゃなくて、沼津の駅北の五月町という場所に、小さい小さいお店をオープンしました。それは地元の人に食べてもらいたい、普段の食生活の中で干物を取り入れてもらいたいということからつくったお店です。沼津の人が10日に一度ぐらい干物を食べませんかというのが実現できたら、干物のまちになるんじゃないかなと感じています。

もう1つ、今後やりたいことがあります。沼津のまちを干物のまちに実現した後、その先にある目標があって夢がありますけれども、私の嫁は実は外国人でインドネシア人なんです。嫁もすごく干物大好きでよく食べます、おいしい、おいしいと食べます。外国ってすごく興味があります。外国の人にもおいしい干物を知ってもらいたいなという思いで、輸出も視野に活動しています。

最後に、行政の皆さんにお願いをちょっとだけ。今も申しましたけれども、沼津を干物のまちにしたいので、外の人にPRしてもらうのは本当にすごくうれしいんですけども、やはりもっと中の沼津の市民の方とか近隣の方たちにも干物とか地場産業のこととかをもうちよっとPRしてほしいなと思います。

あとは、輸出のことに関して、いろいろ県政情報の提供とかあるんですけども、ただ実務は教科書どおりいかないものですから、内容についても違う、実務になったときのフォローをしていただけるとうれしいなと思います。このようなお願いをして私の発表を終わりたいと思います。どうもありがとうございました。

【発言者4】 皆さん、こんにちは。こういう場に慣れてないので、皆さん温かい目かどうか、温かい耳で聞いていただけたらなと思います。

私は2011年に未就園児の子を持つママが6人で集まって発足させた子育てサークルtasukiの代表を務めております。私自身は大阪出身で、旦那さんの転職を機に沼津に来て8年になります。私の子育ては新潟で始まったんですけども、実家が大阪ということで、だれにも頼れることがなくて、子供と1対1の子育てが始まりました。その1年後に沼津に来たんですけども、やっぱり沼津でも実家が大阪で、主人の実家は浜松なので、頼れることがなく1対1で、友達もいない中で子育てが始まりました。

すごいもやもやすることが多かったんですけども、外に出て公園でママ友たちに会うと、「実は私も思っていた」とか、こんなことがあってこうなんだよと言うと、「あっわかるわかる」とか、そういったみんな結構思っていることは同じなんだなと思うことがすごくたくさんあって、それをだれかに言ったりとか、共有したりすることによって、子育てってプラスに考えられるんだなと私はすごく思ったので、そういった媒体というか、みんなが集まる機会もいいんですけども、みんな悩みは一緒だよ、みんな子育てしているよということをみんなに分かち合えたらいいなという思いで、未就園児のママに向けたこういった小冊子を出しておりました。

これ3,000冊で、沼津市を中心に130カ所ぐらいに、スーパーだったり、カフェだったり、子育て支援センターとか、そういうところに置いていただいていたんですけども、そういった活動をしている中で、特集に一度防災を取り入れたことがあって、防災を取り入れる中で、やっぱりちゃんと震災があった土地で子育てをしているママの話聞いて、やっぱり記事にしないといけないということで、宮城まで行きまして、実際震災があった

ときに子育てどうしていたかという話を伺って記事にしたんですけれども、そういった中で、こんなにすごいちっちゃい、このちっちゃいサイズは、ママバックはばんばんなんです、なのですぐ入るようにとちっちゃいサイズにして、あと授乳中でも、男性の方がいらっしゃいますが、こうやっておっぱいをやりながら見れるというサイズで、この小さいサイズにしているんですけれども、こちらに特集で載せる伝えたい量が限られているので、それじゃ防災といっても、もっと自分のことで考えてやっていかないといけないなということで、3年間で12回ほどの「子供を守るママになろう」というテーマの防災講座を開催しておりました。

そこから派生して、tasukiの中で「ママ防災部」という子育てサークルでちょっと珍しいんですけれども、ママたちが集まって防災の勉強をするという部活動みたいなものもやっておりました。

この冊子を3年間続けて、防災を4年間続けた後に、どんどん自分たちの子供が大きくなって行って、幼稚園に入ったり、小学校に入っていく中で、果たしてボランティアでこういった活動を続けてきているのはどうなんだろうというか、みんなやっぱりお金が必要になってくる中で、アルバイトだったりというところに出てしまって、主で活動する友達、仲間がいなくなってしまうんですね。

この問題というのは、結構他のサークルでも同じで、もっとやっぱり継続的にちゃんとこういった子育て支援みたいなものはできる形をとらないといけないなと、それはすごく私が思っていて、今ちょっとtasukiの活動をお休みして、充電期に入っているんですけれども、ボランティアではなくて、きちんと収益を得た事業で、継続ができて、そういった子育て支援ができるというのを当事者のママたちで会社をつくりたいなと思っております。

先日なんですけれども、隣の市の三島市さんの妊娠出産包括支援事業の取り組みの勉強会に参加させてもらってきて、三島市さんは全国でもすごくモデルケースになるぐらい事業が盛んというか、やられているんですけれども、出産前から子育て期までをちゃんと包括して見ている子育てコンシェルジュという方をちゃんと置いていて、出産前から見ているという感じなんですけれども、沼津市ではまだちょっとそこまではいってないので、早く導入されたらいいなと思うんですけれども、そのようにこちら側がやってくれ、やってくれと言うのではなくて、私たちがそういったネットワークの中でうまくそういうものをつくっていったらいいなと思っております。

ちょっと息切れがしてきて、すごい思いはいろいろあるんですけれども、今まで結構支

援される側というか、ちっちゃい子供がいるので、何でもやってもらう側で、なかなか行政に、やってくれないとか、保育園入れないとか、保育園入れなくて、託児所も預けられないとか、不満がすごくいろいろあったんですけれども、何か視点を変えると、そうじゃなくて、民間だったり我々ができることをやっていくことがすごい大事なんじゃないかなと、すごい今は思っていて、それを皆さんが支援していただけたら、それこそ本当に子育てのしやすいまち、環境になっていくんじゃないかなと思っております。ありがとうございます。

【川勝知事】 ヤマカ水産の発言者3さんですが、5代目ですか。大したものだ。家康、秀忠、家光、家綱、綱吉、元禄時代。こういう立派なミスター干物がここに登場している。まだ30代ですよ。しかもお子さんが5歳、4歳、2歳ということで、立派なパパで、皆干物が好きだと。歯が生えてきたらすぐに干物を食べている。そして奥様が聞いたらインドネシアの方だということで、そしておしゃれな「ペッシュール」、これをディナーに出す、こういうすごい人が出てきたなということは、沼津の誇りですね、これは。もう想像以上に喜んでおられるんじゃないかというふうに、私が創業者だったら「いやあ、よくやっておるの」というふうに声なき声が聞こえてくるような気がいたします。

ちなみに新商品セレクションというふうに言われましたでしょう。実は静岡県には食材が439あって日本一なんです。これは海の幸もあるし、山の幸、何でもありますから、しかも農業芸術品とか、要するに非常にレベルの高い、品質の高いものを産出している食材の王国です。この食材を活用して、いろいろなものに加工すると。これを新しい商品、セレクションとして厳正に審査員に選んでいただいて、そこで金賞を取られたわけです。ですから、これは実はそれ自体がブランドなんです。ただし、これがまだ十分にPRできていない。

だけど、フランス人の心をとらえたということではありませんか。ですから、フランスというのは食の都みたいなところですから、その人のちゃんと意見を聞きながら、パンにも合う干物と。干物はもう漢字で書かない。アルファベットで Himono。Tumani とか Fujisan とか、要するに訳す必要がない。そういう Himono としてやっていく。日本の言葉から国際語にされたわけですね。実は里山という言葉があるでしょう。里山も今訳せないらしいですよ。自然と一体になって手入れをしながら、きれいな景観を、あるいは里海とか、里浜という言葉も今出てきていますけれども、これもそのまま使われるようになって

きました。

ですから同じように干物も、発言者3さんを通して国際的な商品になっていくと。このいわば突破口が「ペッシュール」じゃないかと。そして寿司も、恐らく我々子供のころは、本当に日本的なもので、こういうものは欧米の方たちはけったいなものだと思っているというふうに勝手に思い込んでいました。しかし、寿司は御案内のように、今や和食は世界でユネスコの無形文化遺産になって、お寿司はその代表でしょう。その寿司が向こうにいくと、アボカドにマヨネーズを塗って、それで寿司を食べるとか、なんてけったいなことをするとか、それからお肉を載せて食べると。慣れるとうまいんですね。

同じように、パンに干物。しかも今言われたシマアジだとか、マスだとか、キンメダイとか、そのエッセンスを上手に混ぜてつくられているというじゃないですか。これはもう成功させねばならない。外国のことは任せておいてくれと。国内のPRを市長、よろしくお願いします、こうおっしゃっているわけですね。我々県も新商品セレクションとして選んでおりまして、県の誇る新商品なんです。

ですから、これはもう今いろんな形で国内にPRをしておりますけれども、特にやっばり沼津20万の方たちが、これを特にお誕生日だとか何かのときに、多分高いんでしょう。ですからそれを楽しめるようになると、また食堂ですね、特にホテルとか、そういうところを出していただけるような、そういうものに運動して行って、市民運動にして行って、沼津イコール干物のまち、その干物も国際語として使う。わざわざそれをドライドフィッシュとか訳さない。そのまま Himono として使う。沼津は実はアジでも何でも最高だというのをやっていけそうな気がしました。

要求されたのはPRしてくれというだけですね。ちゃんと干物があるから、しかも新商品セレクションに選ばれているからやってくれと、こう言われましたので、これは一緒にやっていきたいと思った次第です。5代目綱吉、あとは5歳、4歳、2歳がどうなっていくか、これが楽しみであります。

それから、いやあ、もう発言者4さんは感心しました。新潟というと、冬は雪に閉ざされがちですよ。外に出れば滑って転ぶし、それと比べたら、こちらはこれから真冬になるのに雪は富士山の上だけで、向こうは豪雪じゃないですか、なんていいところなんですよ。

しかしながら、ともかく恐らく発言者4さんもそうだと思いますけれども、今の女性は中学、高校、場合によっては短大、大学と行かれる人が多くて、学歴が学校の先生よりも

高いくらいです。小学校や中学校の先生も変わらないわけですね。非常にしっかりされている。そしていい方と出会って結婚すると。そしてお子様に恵まれて、そうすると今度は子供はかわいいけれども、子供としか向き合えない。ここにすごい不安だとか孤独だとかがあると。しかも両親やお友達と違うところで生活しているという。

そこでママ友というか、こういうサークルをつくられると、実は共有している人が多いと言われるのは、全く言われるとおりで、これをどういうふうにして社会のパワーにしていったらいいのかといったときに、事業にしていっておっしゃいました、もう。大体役所は男が中心だから、例えば先ほどの **tasuki** ですね。これも女性でしか考えられないように、ちょっと片手でも読める、赤ちゃんの世話をしているときにも読めるとか、ハンドバッグにすぐ入るとか、なるほど。写真も入っているし、やっぱり女性らしいお花があるし、これはもう既に起業家精神が充満しているという感じですね。これはもうぜひ事業として成功していただきたいというふうに思う次第です。

そして、さらに三島市でもやっているとおっしゃいましたけれども、赤ちゃんがお腹に宿ったときから、ずっと育児まで一貫して、実際は沼津市は高校まで医療費無料ですよ。日本でも最先端っているんですね。ですから、子育てはそういう意味でのしやすさというのは行政もやっていらっしゃるんですけども、まだ細かな女性の、お母様の、ママさんの立場に立った配慮が制度的にまだないということをおっしゃっていて、ならば自分たちでやろうじゃないかと。

特に防災というのを言われたのでいいと思います。御案内のように、東日本大震災で2万人の方たちが行方不明とか死者になられました。その後、避難所生活で、しばらくの最初の避難所では男も女も、乳飲み子を抱えたお母さんもいらっしゃいます。そのときに女のことなんて考えてないよというような防災の専門家がいたら、本当に困りますね。赤ちゃんが泣く、ほかの人たちに迷惑をかける、どうしたらいいだろうと。それが本当に問題になったのが熊本でした。

熊本で女性の立場に立って避難所経営をどうするかというのが真剣な問題になりまして、ですから乳飲み子を抱えた、あるいは小さい子を抱えたお母さんがどういうふうにするか防災力を上げていくか。仮に災害が起こったときにどのように対処したらいいかということとは、その女性の立場から、ママさんの立場から考えるというのが、実はいいのです。

実は本県の危機管理部、恐らく沼津市は進んでいるから違うかもしれませんが、ほとんど男です、危機管理部。で、女性の立場に立った危機管理をやってほしいと来るん

ですけれども、まだ十分でないんですね。ですからやっぱりならば自分たちでやろうと。そしてボランティアというのは大事なことですけれども、しかしやはり続けていくためには事業化するということが大切で、これはなかなか思い切った冒険ですが、ぜひ成功してほしい。

今は鋭気を養われていると、充電中とおっしゃいました。これだけの今まで経験を積んでこられた方ですから大きく花開くんじゃないかと思っております、一緒にこの絆を支えて、特に女性の方たちはその事業に協力をすると。要するに生産するでしょう。どうしたらそれは発展するかというと、物をつくったものは買っていただかないといけません。だからお母様の立場、あるいはお客様の立場に立たないとだめなんです。だから自らがお客様になるということが大切なんですね。

ですから、そういう形で助けることができるんです。失敗は当然あるでしょう、初めてやる場合には。だから2, 3回の失敗は寛容的で許すと。そして何回か何回かやっていくうちに確実に、何と申しますか、根を張っていくんじゃないかと。これはお母様方、今全国津々同じ問題を抱えていらっしゃる方がたくさんいらっしゃるので、ここで突破口を、干物で発言者3さん、このママさん事業で発言者4さんということで、そういうことです。陳情ばかりのときがあるんですよ、あれやってくれ、これやってくれと。4打数4安打、全部やる気満々ですね。さすが沼津、明るいですね。それが大変うれしいところでございます。ありがとうございました。

【発言者5】 狩野川放水路の放水口の口野というところでサイクルカフェをやっております発言者5と申します。ごめんなさい、僕多分陳情します。

サイクルカフェということで自転車乗りの方が多く訪れるカフェなんですけれども、よく皆さんに聞かれるんですけれども、元々自転車選手とかやっていたわけではなくて、あくまで趣味として中学生くらいのときからずっと続けて自転車に乗り続けています。その趣味が高じて、カフェと一緒にサイクルカフェを始めたというのが始まりのきっかけです。

生まれも育ちも東京なんですけれども、静岡のすばらしい環境に惹かれて、10年くらい前に移住してきました。ここ最近、静岡県内の自転車熱というのは非常に高まっているんですけれども、お店のすぐ近くには沼津市の廃校となった旧静浦東小というのがあるんですけれども、その校舎をリノベーションして、整備してくれたサイクルステーションというのがあります。皆さん御存じですか。知っていますか、うれしい。

そのサイクルステーションを起点にしたりして、天気の良い休日なんかには、口野から大瀬の間の海岸線を結構たくさんサイクリストが今では走るようになっております。

お店をオープンしたのは4年半前なんですけれども、そのころは沼津の海岸線を走る自転車というのは、それなりにはいたんですけれども、サイクルラックと呼ばれる設備、スポーツ自転車って大体スタンドがないんですね。ママチャリなんかはみんなスタンドがついているんですけれども、スポーツ自転車は重くなってしまうのでスタンドは排除して、ついてないのが大体なんですけれども、そのサドルを引っ掛けて停車できるラックがあるんですね。それが非常に自転車乗的には便利なんですけれども、それを沼津市で見かけることは4年半前とかは全く1台もなかったんですね。4年半前までは沼津市は余り自転車には関心がなかったみたいで、ちょっと寂しいなと思いながら自転車に乗っている人間としては見ていた感じです。

現在、4年半たって、私ちょっと沼津市のアドバイザーとして微力ながらお手伝いさせていただいているんですけれども、サイクリストフレンドリーエリア創造プロジェクトチームというのが沼津市にありまして、その方がサイクルステーションを整備してくれたり、さっきも言ったサイクルラックですね、それを設置してくれるお店を募集してくれたりしたおかげで、今海岸線だけでも、口野から戸田の間くらいだけでも20カ所ぐらいサイクルラックが今置かれるようになって、非常に自転車に乗る人間としてはうれしい環境になっています。

ちょうど今週末、ここのプラサヴェルデで東京モーターショーみたいな感じの、車じゃなくて自転車版を開催してくれるようなこともあって、非常に東京とかに見劣りしなくて、楽しめるような状態になっています。

あと、こちらは県の事業ですが、口野から大瀬の間の海岸線に自転車走行推奨帯という「矢羽根」って皆さん御存じですね。青い「自転車ここ通ってね」というのがあるんですけれども、それを引いていただいて、とても走りやすくなってきています。

先ほど環境に惹かれているというふうに申し上げたんですけれども、自転車乗りにとって静岡県、特に東部とか浜松がいかによいか、ちょっと御説明したいと思います。1番に、場所としてのバランスがすごくいいということですね。自然がとても豊かで、東京、横浜から近く、ごはんがおいしい。車と信号が少なく、車の運転も多分気性も、皆さん生活されている方も優しい方が多いということだと思っておりますけれども、とても運転が優しいというのが挙げられます。自然の面は当たり前なんですけれども、自転車で走るコースな

ので重要ですね。山もあるし海もあるということで、昨日自転車買って今日始めましたという方からプロの選手まで、どんなレベルの方でも皆さん満足して楽しんでいただけるといいうそういうコースが取れます。

都会から近いというのも自転車乗りの大事な要素で、自転車乗りの中上級者は距離感が狂った方が多くて、東京の圏内は沼津までは日帰り圏内なんですよ。行って帰って 200 km、普通に日帰りで走っちゃう距離なんですね。なので、横浜、東京から来て、うちのお店に寄ってご飯を食べて夕方夜までに帰るといいう方が結構多くいらっしゃいます。

また最近では、そこまで走らない方でも車載、車に載せて来る方や、電車で移動してツーリングするというスタイルとかが非常に定着しているので、より気軽な形で、行きは沼津まで来て、走り終わった後、おいしいお刺身なんかを食べて、干物を食べて、帰りは電車で行く、飲みながら帰るといいう方も結構増えております。

環境のもう1つ、オリンピック・パラリンピック関係、これ非常に大きいです。お店を始めた後にオリンピック・パラリンピックが決まったんですけども、自転車競技、トラックは伊豆ベロドロームで開催することが決まって、ロードのロードレースもどうやらゴール地点が富士スピードウェイになりそうということで、自転車競技は全部静岡県で賄うということになりそうです。

オリンピック・パラリンピックといっても、ベロドロームが主体となる伊豆市だし、あまり沼津関係ないんじゃないかなというふうに思っている方は多分多いと思うんですけども、これ市長、ぜひ聞いていてください。オリンピック・パラリンピックに出場する選手は沼津に来るように、もうできているんです、実は。本当なんです。

どういうことかというのと、まず第1に、オリンピック・パラリンピック招致のときに、アルゼンチンのブエノスアイレスでやっていたね、「おもてなし」って。あれと一緒にすごく印象に残ったというか、どちらかというとそのよりも一番開催を引き寄せた感動的なスピーチをした方がいらっしゃるんですけども、義足のジャンパー佐藤真海さんという方がいらっしゃるんですけども、覚えてないですかね。

とても感動的で、震災で被災されたりとかして、続けてこられた方なんですけれども、それから立ち直るという意味で、ぜひ東京でということスピーチをされて、とてもIOCの方々共感を得て開催が決まったということなんですけれども、その方、今現在結婚されて谷さんと名前が変わっていらっしゃるんですけども、最近トライアスロンに実は転向されて、元々陸上のジャンプ、義足を付けてのジャンプ競技をやっていたんですが、

今トライアスロンで東京パラリンピックを目指しています。

先日代表合宿の際にお店に立ち寄っていただいたんですけども、招致した張本人が沼津に来てトレーニングをしているということですね。この方、9月に行われた世界選手権で優勝して、今世界チャンピオンなんですね。なので東京ではメダルの期待が非常に高い選手です。

そういった選手は、練習するのはもちろんベロドロームを使うんですけども、国際規格はベロドームしか、日本に今1個しかないんですね。なので、日本代表選手はここで練習する以外選択肢がないんです。プールなんかは全国どこでも50mプールとかありますけれども、自転車はここにしかないの、ここに来ざるを得ないということなんですね。

そのベロドロームでやるんですが、基本的にそのベロドロームでやると、練習ってなかなか一般の方が見て、レーシングタイヤにするというのはなかなかできないので、風景が見れないんですけども、実は選手たち、ベロドロームばかり走っているわけじゃないんです。トラックとって、ブレーキのついていない自転車ばかりではなくて、ロードバイク、外で走っているやつですね。あれに乗る機会が結構多くて、その場合は大体沼津の海岸線か狩野川を走っています。多分日本で一番オリンピック選手とか、日本代表選手に遭遇する確率が高い道路が県道17号線という大瀬までの道です。本当にしょっちゅう走っています。

もうちょっと言うと、今の日本代表チームの自転車のトラックの監督は沼津に住んでいるんですね。御存知ないですか。住んでいるんです。ブノワというんですけども、敏腕な監督で、今どんどん選手の実力が上がっています。先日もワールドカップ出発前に来てくれたんですけども、インスタグラムとかSNSで沼津のきれいな風景を発信してくれていて、もちろん監督で有名な方なんですが、自転車関係者に実は沼津の景色なんかが発信されているということですね。

皆さん、国際競輪ってあるのは御存じでしょうか。やっぱり皆さん知らないですね。日本の競輪選手に混ざって、世界のトップ選手が来て、実は走っているんです、競輪を。現在のトラック競技はオリンピックなんかの競技には「ケイリン」というカタカナの競輪ですね、さっき干物がアルファベット表記なんて言っていましたけれども、それと同じでケイリンというのも実際に各国の競技で使われているんですね。その発祥の地の競技に海外から短期登録選手として来日して走っているんですね。

それも、そこそこの選手というわけではなく、世界チャンピオンやオリンピックのメダ

リストが実は来て走っている。彼らもちろん日本の競輪と並行して、オリンピックやワールドカップを目指していますので、伊豆を拠点として選んでいます。

サッカーで言ったらバルセロナの選手だったり、野球で言ったらイチローみたいな、そんな選手が、さっき言ったブノワ、日本代表の監督にコースを教わって走っているの、富士山見ながら、キャッキヤしながら沼津の海岸線を走っています。

先ほどちょっと知事もおっしゃっていましたが、伊豆は凍結しないんですね。雪がそう滅多に積もらないので、そんな温暖な気候があるので、ロードの選手、普段そんなような道を走るような競技の選手も、冬の間はよく伊豆に来て合宿することが多くて、プロ選手、これからもしょっちゅう出かけます。

そんなすばらしい環境をもっとお店の会話とか、インターネットなんかで発信し続けることで、かなり認知が上がっておりまして、開店当時と比較にならないぐらい、沼津を訪れるサイクリストが非常に増えているんですけども、選手の来店なんかも非常に増えてくれて、初心者ライダーの悩み相談なんかをお店なんかでやっている、たまたまプロ選手が来てくれて、そこで交流が生まれて、本当ど素人の昨日始めましたという方の質問をプロ選手が楽しく答えるという、そんな素敵な光景がよく見受けられるようになりました。

おこがましいとは思いますが、要望を。市と県で取り組んでくれている自転車関係の事業は非常にありがたくて、他県とか外国からの観光客も増えてきて、とてもいいことだと思っていますが、たまに首をかしげてしまう事例が実はありまして、どういうことかという、矢羽根を引いていただいたんですね、あれとてもいいんです。ただ僕にとってはすごくいいんです。なぜかといったら、走っているのを知っているんです。

その青い矢羽根は何なのか、わかっている、自転車はここを走ればいいんですねとわかっているんですけど、地元の方に聞くと、これはマリオカートってわかります？ゲームがあるんですけども、そのゲームの車が踏むと加速する装置みたいで、「何なの、あれ？」という方が結構多いです。

マーク自体もわからないです、何だか、ということだったり、あと本当に初心者の方を連れて、ちょっとサイクリングする機会があるんですけども、「あの矢羽根、気づいた？」と聞いたら、「いや、あったことすら気づかなかった」ということを言われてしまって、こちらは「あって走りやすかったですよ」と聞いてたつもりが、気づかなかったというくらい、その方にとっては存在だったみたいなので、せっかくやっていただけるのであれば、もうちょっとわかりやすく自転車のマークをつけるとかしていただけると、より車側

にも自転車側にも優しい表示になるのかなと思います。

それこそ、やった業者さんのリサーチ不足とかも多いにあると思うんですけども、伝わらないのはもったいないので、ぜひこういった事業を進めるときに、バランス感覚で、ある程度自転車について知識の明るいものを入れていただけると、よりよいものがつくれるのではないかなと思います。

あともう1点、ぜひ環境を生かした地域活動をしていただけると、自転車はうれしいかなと思います。世界三大スポーツの祭典というのがあって、1つはオリンピックですね、もう1つがサッカーの世界カップです。もう1つ、ツールドフランスと世界的には言われています。ツールドフランスというのは自転車の大会なんですけれども、世界的に非常に人気が高いということなんです。なので、日本的にはまだメジャーな競技ではないんですけども、世界から見るととても実は情報力のある競技ということですので、ぜひそれだけ人気のある競技の環境として、静岡県は日本で一番優れていると僕は思っていますので、これを世間が知らないのは非常にもったいなと思うので、ぜひすばらしさを発信していただければと思います。以上です。

【発言者6】 八百屋の発言者6です。私初代ということで、ペーペーということで、常日ごろ試行錯誤しながら毎日を過ごしています。

29歳のときに八百屋を始めました。30までに起業したいと思ひまして、正直、27歳、28歳ぐらいまで沼津はおもしろいところじゃないなと思っていた人間です。21歳のときに学生のとときに1年間休学をして、世界をぐるっと回っていたんですけども、そのときに日本ていいなと思って、日本の過疎地域になんかすごい魅力を感じて、本当は東北の過疎地域に行って、おばあさんの野菜を売ろうとか思っていたんですけども、東京で食品会社のバイヤーをやっているし、全国の地方からどこに行こうなと思って考えて、沼津ってあんまりおもしろくないかなと思って、でもゆっくり回ったら、何だここはと、いろいろおもしろいものがあるなと思って、要は僕がただ見てなかっただけなので、決定的だったのは富士山の夕日を見て、あの景色を見たら、何てすばらしいところだと、世界へ行く前にここをもっと知るべきだということで、ここで起業しようということで、29歳のときに八百屋を始めました。

八百屋なんですけれども、沼津のほかに富士宮から朝仕入れたりとか、南伊豆からも、静岡東部の拠点となる場所ということでいいものが集まるということで、非常にいいなと

ということで八百屋を始めたんですけれども、いざ八百屋を始めると、お店にいろんな方が来て、まちの課題とかお話ししていただいて、すごくいいことを言う方もいらっしゃるんですけれども、変な話、ちょっと愚痴というか、だから沼津なんだよねと言う方もいらっしゃるんですけれども、だったら自分ができることから、小さいことからやっついこうかなということで、いろんなことを始めてきました。

小さいイベントをやったりとかなんですけれども、初めは震災のときに、街中が計画停電で暗くなってしまって、全く暗い中、沼津寂しいよねと言ったときに、商店の前に机を置いて、お食事会みたいなことをしたんですけれども、それを見た人が、SNSを見て、何かおしゃれな食事会だねといって、どんどん人がふえてきて、知らない間にイベントになってしまったんですけれども、実は県道を使わせていただいたというか、人があふれて県道まで行ってしまっていて、初め許可を、ちょっと人が増えると想定せずに使わせていただきまして、ですから途中で一時占有の警察の許可も出したりしているんですが、そのときになかなか公共空間を使うのは難しかったんですけれども、今はいろいろナイトマーケットというイベントを歩道を会場にして、県道の歩道を使わせていただいたりとか、あと国交省さんの御協力もありまして、県に占有料をお支払いして河川敷の利用ということで、いろいろ公共空間と民地の活用ということが非常に大切だなと思いつながりイベントなどを行っています。

あと沼津ジャーナルというサイトを運営しているんですけれども、イベントとかいろんなことをしていくと、この人おもしろいなと、沼津に宝っていろいろあるんですが、僕は沼津の宝、結構人もかなりあると思うんですね。結構ここにいらっしゃる方も沼津ジャーナルというサイトで取材させていただきました。気になったら沼津ジャーナルというサイトで皆さんの名前を検索したら出てくるかもしれないので、よかったら見ていただけたらと思うんですけれども、そんな形で、多くの方が沼津を悲観する方が多いんですが、まだまだ可能性はあるなと思っています。

今、商店街の理事長をさせていただいて、なぜか、私38で、地主でもなく、大家でもなく、店子なんですけれども、そんな人間がなくなってしまったというこの沼津の大らかさというか、すごく可能性があるなと思います。

今、2年前に熱海でお店を開いたんですけれども、それは東伊豆のものが入りづらいので、物流拠点として初め考えていたら、今御存知のように、熱海がすごい勢いで観光客だったり、セカンドハウスを持つ方も多く来ていて、お店に来ていただいているんです

けれども、熱海がライフスタイルに合わせたお店が全くなくて、今沼津のものを、ライフスタイルを楽しめるものを熱海に持っていくと、熱海の方が喜んでいただくということをしています。

熱海も結構マンションを買われる方もいて、移住する方もいるんですけども、すぐ離れる人も多いんですね。温泉入って、いい景色見て、その場所にコンテンツがない。旅館がメインで、それに関しては、例えば沼津と熱海でそういうコンテンツの提供という形で、まちとまちの交流じゃないですけども、形で何かいろいろ提案してもいいのかなということで、本当に沼津もいろんな資源があるんですけども、静岡県もいろんな資源がまちごとにあると思うので、それぞれが1つにならなくていいと思うんですけども、私たちのまちにはこれがあるというこういう役割があるということをお負して、それをいろんな方に提案していくといいのかなと思っております。

あとまちのことを考えたとき、観光に力を入れていくべきということもあるんですけども、もうちょっとライフスタイルをより豊かになれることを、これ行政の方がやるのではなく、我々がお客様のニーズを感じて、提案をしていくべきなのかなと思っているんですが、まちなかには起業する人が結構多くなっています。

というのは、沼津市は地価が下がったと言われているんですけども、三島になかなか出店する人は少ないので、沼津は割といい場所が多いなということになってはいるんですけども、今年もかなりの件数が新規の出店をしたんですけども、既存のお店の方も焦って、自分たちもちゃんとしたサービスをしなきゃいけないと思って、サービスの向上を全体がしているように思います。

しかし、お客さんはそんなにすぐ増えないということで、何とか既存のお客さん、沼津のお客さんを増やすことと同時に、沼津港に来たお客様が、ショッピングをしたりとか、食事をした後、例えば川で遊んで、そのまままちとまちの間のところでいろいろものづくりをしているようなところで遊んで、まちでまた楽しんで、そして元気に帰っていくということで、何かもうちょっと沼津港からの動線を考えて、提供していくサービスを我々民間もしていくべきなのかなということで、先日一般社団法人をつくりまして、レーンスケープという名前で造語なんですけれども、レーンというのが境界、境、道路のことですね、境界をおもしろくしようということで、民地と民地の間だったりとか、道路と道路の間、公共と民間の間ということで、そこに規制緩和を含めて、いろいろ行政の方にも御協力していただいたりとか、あとこういう川と民地の使い方があるということで、オーナーさん

に代わって、いろんな方の出店や集客を促したりとか、そういうことをしようと思っております。そんな形で沼津がもしかするともっともとおもしろくなると勝手に思っております。

やはり今現状沼津港に来るお客さんをどうするかということもあるので、それは例えば沼津港の中でいろいろ皆さん議論をされていると思うんですけども、一部の市民の方の声としては、ライフスタイルを豊かになるように、例えばお魚をそこで買えるような、観光客相手のものだけでなく、例えば自転車の拠点として ONOMICHI U2 といって、倉庫をリノベーションして、格好よくそこを拠点にいろんなところへ行けるというところがあるんですけども、県の土地のところには古い倉庫があったりもするので、そういうところを有効活用して、そことまちだったりとか、内浦、西浦の拠点となるような場所を使っていくといいかなということで、なので地域にある資源をいろいろ編集して発信をして、それを皆さんが心豊かに過ごせるように、ドラマティックにロマンティックに物語をいろんな方に提供すると、地元の方も楽しめるし、そして地元の方がそれを楽しんでいるのを見て、観光客の方ももっともって来るのかなということで、なのでまずは私どもがもっと楽しんで生活をしなければいけないなということを周りのみんなに伝えながらやっていきたいなと思っております。

そのためには駅の再開発にしても、そういう形でドラマティックにというか、物語がある形で進んでいただくといいかなと期待をしております。以上、発表となります。

【川勝知事】 今、発言者5さんと発言者6さんから夢のある話を聞かせていただきました、30代ですか2人とも、いいですね。

まず発言者5さんの矢羽根ですね、実はこちらに来る前に、私、静浦東小学校跡地ですが、今あそこを沼津のサイクルセンターとして3階建ての校舎の1階の一部がサイクリストのセンターになるように改造されまして、そこを見学をし、沼津市の立派な方からそこを紹介していただいて、なぜそういうものが必要かという、サイクリストはどこを回るかというときに、前もって静かなところで打ち合わせをするらしいです。そして危険なところ、それからゆっくり走るべきところ、あるいは心得ておくべき注意事項をしっかりと打ち合わせするという場所が必要だと。そういうことでこのセンターをそこに設けたということなんですよ。

そのすぐ近くに発言者5さんがいらして、御案内のように、静浦東小学校のところは、

すぐ道路に面していますから、そこに矢羽根が打たれているわけです。40mごとに打たれているんですが、それも見てきました。これはなるほど今、発言者5さんから言われてわかりました。なるほど、この矢羽根は、そこに矢羽根は青い色で、矢の羽根の形をして、そこは自転車道路ということを示すために付けたと思っているんですけど、ほとんどの人が知らないわけですね。だからそこにちょっと工夫すれば、これは国交省との交渉もございまして、そこに自転車専用ですよということで、同じ道路を車と自転車がシェアしているということで、これがわかるようにする必要があるんで、できるかどうか、ちょっとすぐに打ち合わせをして、そして一番重要なところから、その矢羽根とそれが自転車と一体であることがわかるようにしていきたいというふうに思いました。

それから発言者5さんは中学校のときから、これ趣味で好きだったと。だから中学くらいときに大体自分の嗜好性みたいなものが出てくるんじゃないでしょうか。藤井聡太君なんか、もう中学で名人ですからね。50勝6敗です。中学生14歳で29連勝しました。羽生さんを抜いたわけですね。ですからもう彼は将棋道でやっていくでしょう。

恐らく発言者5さんも中学のときに、自転車、自転車、自転車でやってこられて、そして最終的に夢のあるところはどこかということで、この沼津でわらじを脱がれて、そしてサイクルカフェを立ち上げられたと。何でも御存じですね、びっくりしました。だから何か自転車学を発言者5さんから聞いているという感じで、中学生で、あるいは小学生で自転車が好きな子が、こういう発言者5さんの話を聞いたら、自分もこういう仕事、あるいはこういう自転車の世界に入っていきたいと思うんじゃないかと思いましたね。僕が10代だったらそう思うと思います。

残念ながらちょっと遅いんですけども、それはともかくとしまして、そして実際彼のカフェには世界のチャンピオンが来ているわけです。そして日本のチャンピオンも来ている、その理由も言われました。ベロドロームがそこにあるから来るわけですね。

そして伊豆半島、ここは初心者からいわゆる上級者まで、いろんなサイクリストが楽しめるような、そういう地形を持っているわけですね。やがてこれはジオパークになります。世界人類の宝物になると。海の食材、それから陸の食材、これはそろって食材の王国ですから、ここは本当にすごいところだということで、ここにサイクルカフェを立ち上げたらオリンピックが降ってきてですよ、そしてオリンピック、パラリンピックのうち、自転車競技は伊豆半島並びに東部でやるということになりまして、我々の方もおおっということになりまして、自転車サイクリストのメッカにしようと思っているわけですね。そのとき

にやっぱり人がいるわけです。発言者5さんがいたというわけで、どうもありがとうございます。発言者5さん、このために生まれてきたと、本当にそう思いますね。恐らくこの道へ行かれるんじゃないかということを、もうお話の端々から聞きました。

それから先ほどパラリンピックの話がありましたでしょう。今東京オリンピック・パラリンピックということで、一体的に言いますね。それから自転車競技はベロドロームで行われるから、伊豆市だけの問題だと確かに思いがちです。それは間違いです。実はオリンピック憲章というのがあります、オリンピックというのは「スポーツと文化の祭典」というふうに書かれているんですよ。ですから、そのオリンピックにおいて、実は文化的イベントというのが行われているわけです。これを本格的にやったのが2012年のロンドンオリンピックだったんです。

そしてそのロンドンで行われたオリンピックとあわせて、カルチュラルオリンピックと銘打ちまして、文化プログラムをイギリス全土で立ち上げたんですよ。そうするとロンドンにお客様がお越しになる。ロンドンでその競技を見る。一方でせっかくイギリスに来たからというので、ちょっと旅行したら、イギリスは国を挙げてそれぞれのまちでいろんなことをやっているものですから、もうびっくりして全部回れなかったと、もう帰りの切符も買ってあるからということで、その後旅行者が相次いでリピーターで訪れまして、翌年になってさらにお客様がたくさん来たということがわかりました。

その後、リオデジャネイロのオリンピックがあつて、そして東京が決まりまして、全国知事会というのがあります、そこで私はこの話を知っていましたものですから、文化プログラムを日本でもやったらどうかと。東京が中心でやるけれども、日本は見るべきものが東京だけでなくいろんなところがあるはずだから、北は北海道から南は沖縄に至るまで、さまざまな変化に富んだ文化や歴史や景色があると。それで文化的プログラムを全国で立ち上げませんかと言いましたら、反対する人いません。ですから全知事が賛成したわけです。そして、それを知事会として国に持っていきましたならば、国も賛成したんですよ。だから国のプログラムとして文化的プログラムというのを発しているわけです。ですから沼津は沼津で、あるいは静岡市は静岡市で、浜松は浜松でいろんなことを今、県では組織を立ち上げて、日本で最初にやっているところです。

実は3日ほどか4日ほど前、もう1回また全国知事会が首相官邸でありまして、閣僚の皆様方も御出席されているわけです。そこで東京オリンピック・パラリンピックと言っているのに、一方で身体の障害やいろんな知的障害を持っている方たちもいらしている。そ

の方たちも絵を描いたり、歌を歌ったり、いろんなことをされている。

それが例えば沼津のここで宮城まり子さんのねむの木の展覧会がこの春にありましたでしょう。これはもうすごい素晴らしいものですよ。それもカルチャーです。今年それが静岡市で音楽の広場というのがありまして、そこにねむの木の生徒さんたちが出演しまして、感動の渦に巻き込まれた。それで、全国知事会でカルチュラルオリンピアドというんだったら、カルチュラルパラリンピアドというのをあわせてやったらどうですかと。東京オリンピック文化プログラムをオリンピック・パラリンピック文化プログラムにしたらどうですかと。長いのでオリパラ文化プログラムということで、障害者の人たちもいろいろな文化的イベントに健常者と一緒にいろんな形で参加できるようにしたらどうかと言ったら、林芳正文科大臣が、それは素晴らしい重要な考えだということで、これ取り上げてくださいましたので、実は全国もうすべての人たちが、それこそ国を挙げてのイベントにして、それをそれ以降の地域の活性化につなげていくと、こういうことになっております。

ましてや発言者5さんのいる沼津ですから、伊豆の国と関係ないと当然言えないということでもあります。ここはむしろメッカの、いわばメッカを支える、ベロドロームを支える共同体という感じですね。しかも静浦東小のセンターは、この沼津市と、それから伊豆市、伊豆の国市、函南町が一緒になってやった。なぜ一緒にやらねばならないかといいますと、普通のサイクリストは1日100kmぐらい動くんですけど。そうすると沼津市だけでは100km取れないと。だから隣の町やなんかも入れてやったらいいということで、そのどういうルートで行くとおもしろいかという、どれが初心者か、どれがいわば上級者か、あるいは最近は何か土肥だったかな、大瀬かな、港から船を出して、船で別のところに行って、また戻るとかね、そういうことも今船を操る方たちと一緒にされているということもあります。

ですからこれは大きく発展するでしょう。ですから、サイクリストのメッカになり得ると。実は伊豆半島は上級者コースと言われているんですね。そして初心者コースが浜松だそうです。浜名湖の一周、あれは平坦ですから。それから富士山を登るコースですね、あれは中級コースなんですよ。こっちの伊豆半島はアップダウンがあるでしょう。ですからこれマウンテンバイクなんかでは上級者コースらしいですよ。

そういう人たちのいわゆる駐輪場というんでしょうか、それをするところ、それから情報交換するところ、さまざまな部品を交換するところ等々がやっぱり必要なんですよ。そうしたことの情報源がこのCELESTE-CAFE。日本一じゃないでしょうか。

それからもっとすごいですよ、ここは。実はタクシーですね。怪我したと、どうして帰るんですか、自転車で。そうするとその自転車を天井に載せて、車の上に載せて運んでくださるタクシー会社が4社ぐらい、既にもうちゃんと契約しているんですよ。そして0120で、無料で電話をして、そうするとタクシー会社がその自転車を車の上に載せて、怪我をした人なり、何かちょっと具合が悪くなった人をしかるべきところに送り届けると、そういうこともやっている。だから文字どおりいろんなところに配慮したそういう今メッカに沼津がなりつつあります。

その中心人物が東京から来た発言者5さんなんですよ。この人は今39ですか。10年前は29で来た。30ぐらいがポイントじゃないかと思ったら、そうしたら何と発言者6さん、沼津は何もないと思って東京に行って世界一周した。そしたら食事をしたら同じものが出ると、何だこれとは、食文化というものがこんなに重要かということで食品の会社に勤めて、そして改めて自分の生まれ故郷を見たら、もちろん干物は言うまでもありませんが、実はいろんなところで野菜なんていうのは、これほどたくさん、しかも農業芸術品と言われる野菜です。静岡県でつくっているものは農芸品なんですね。農作物399あります。献上品であるものもあるくらいでありますから、ですからそういう最高級の品質のものをつくっている。これは実は沼津の宝だと発言者6さんは気づいた。それが29歳ですって。

だから30くらいというのは、数えで30ですね。昔から30で立つというじゃないですか。だからかわいい子には旅をさせて、しかし沼津の情報をちゃんと提供した方がいいと。それをだれがやっているかという発言者2さんがやってくださっているわけです。だからいろいろなことを知った上で、1回は世界を見ていっしょい、世の中、県外を見ていっしょい。しかし戻ってくれ、30になったら、静岡県東部とか、あるいは静岡県とか、それでいきましょうか。そんな感じを思わせたところがございました。

そして、発言者6さんが、観光は発言者5さんが言ってくださいました。実は観光客は、昨年度静岡県にどれくらい来たか御存じですか。1億5,294万です。日本の人口は約1億2,000万人でしょう。それより多い人が来ているんです。その前は1億4,934万です。外国人は10年前には約45万人ぐらいしか泊まらなかったんです。ところが平成28年にはその3倍以上157万近い人が泊まっているんですよ。しょうがないから、空港もビルを増改築します。滑走路はお金がかかります。ビルは増改築する。そうすると飛行機のさばきが多くなるわけです。

そういうわけで、そこを国交省が地方空港の中で外国人の出入国者数が一番多いのが富

土山静岡空港だから、そこを「訪日誘客支援空港」拡大支援型の空港に認定してくださいました。だからお金が天から降ってくるわけです、3年間。

それから清水港、クルーズ船が来るのにすばらしいと。なぜかという駿河湾は世界で最も美しい湾にもう認定されているんですよ。富士山が見える三保の松原、伊豆半島、その中核に清水港があるなら、大型船もとまれるということであれば、これをクルーズ船の拠点港に指定すると。太平洋側で指定されたのは横浜港と清水港だけです。あとは日本海側、金沢港とか、あと4港指定されていますけれども、横浜港はもう既にやっていますから、うちのために指定されたんですよ。だからますますたくさんのお客様がいらっしゃるのです、そのときにどういうふうに観光するかというときに、サイクルは1つの突破口になるという話を発言者5さんがしてくださいました。

もう1つ今、発言者6さんがされたのはライフスタイルというやつですよ。これがいろんなライフスタイルが、海辺のライフスタイルがいい、あるいはちょっと山がいい、あるいは中山間地がいい、都会がいい、いろんなものを選べるのがどこでしょう。静岡県です。ですからライフスタイルを提供できる。

食材がもう本当に春夏秋冬いろんなものがあって、その和食について言えば、これは世界のユネスコの遺産だし、それから何とこちらのミスター干物のお嫁様がインドネシア人だと。ということは、ひょっとしたらムスリムじゃないでしょうか。クリスチャン？クリスチャンほとんどいないんですよ、インドネシアにはですよ。しかしクリスチャンもいるわけですが、場合によってはユダヤ教の人もいるかもしれない。

インドネシアで一番多いのがムスリム教徒、イスラムを信じている方ですね、1日5回お祈りする。それからアルコールは飲まない、豚肉は食べないとか、つまりそれは干物を食べていればいいわけです。干物とご飯と、それでもうハラールなんですよ。ハラールというのはイスラムの食の戒律に合ったものです。

ですからちょっとそれを認定すれば、実はインドネシアの西ジャワというところがありまして、そこに4,200万の州の人たちが住んでいる。バンドンというのは州都で220万です。そこが頼みもしないというか、何の働きかけもしないのに、来て来てしようがない。来たい来たいと言うんですよ。交流したい交流したいとおっしゃるわけです。そこまで言われるなら別に断る必要はありませんので、どうしてかといったら、空港にハラールというイスラムの戒律に従ったレストランを出しますと、それからお祈りすると。向こうの方たちはアラーと、私は富士山にお祈りする、太陽の神様みたいなものですね、それと富士

山と相性がいいんじゃないでしょうかね。だから気持ちは一緒だと、神に祈る気持ちは。そしたらそれ感動しちゃって、来年の5月には滑走路ができるので、そこからもう全部持ってくるとおっしゃるんですよ。えらいことになりました。

それはともかく、来たら必ず必要なのは寝るところ、食べるところ、移動手段です。ですから、食べるものについてはすごく重要だということがありますが、一方で日本の生活形態を見ます。東京に行けば、みんなマンションに住まわれているわけですね。箱の中に住まわれている。こちらはいろんなライフスタイルがあって、そのライフスタイルは実は食文化とも関わっている。この食文化というものをライフスタイルに生かしたらいいということ発言者6さんは言ってくださっているわけです。

彼はやっぱり世界を見てこられたので、ここで選べるライフスタイルというのは、本当に皆さんがうらやましがられるものですよというそういう意味合いを言われているんだと思いますね。実際、特に沼津は文人墨客がいたところでしょう。そしていわゆる偉い人たちがこちらに別荘をお持ちになったり、御用邸もかつてあったところですが、今公園になっております。ですからもう本当にありとあらゆる人たちが、ここは終の棲家になりたいとか、ここに住み着きたいとか、しばらくここに別荘を持ちたいとか、思われるところじゃありませんか。ですから、ライフスタイルという言葉が出たのはすばらしいと思います。東京的ライフスタイルとは異なるものを提供できる。

毎日必要なものは食文化です。その食は干物だと思っていたら、沼津は干物だと思ったら、沼津は野菜だとか言う。ということは両方組み合わせればいいんじゃないですか。ですから定食も、干物定食と野菜定食、あるいは豪華版で野菜と干物と両方ファーストコース、セカンドコースで出せば食べられると。イスラム教徒の人には沼津のお茶を出せばいいですね。そして我々みたいな者にはワインでもお酒でもよろしいんじゃないでしょうか、白隠さんのお酒もすぐ近くにございますから。

そういうことがございまして、それぞれのライフスタイル、生き方、信条に従って生き方が選べると。しかし何よりもお住まいになったときに、いい方に巡り会って、場合によっては外国人である場合がありますね。その人たちが幸せに育てていけるように、ママさんに対するケアができてるように、それが実質は子供のケアになると思いますので、そういう沼津が先頭を切られるなど。

今日は本当に若い人たちの話というのは、やっぱり違いますね、パワーがありますし、夢がありますし、励まされた感じがします、私の方が。今日は発言者5さん、発言者6さ

ん、本当にありがとうございました。感じ入った次第でございます。